

大学入学共通テスト当日までに確認しておきたいこと

1 地歴・公民、理科②の2科目受験では

第1解答科目を決めておこう

1科目の成績のみを合否判定に利用する大学で、地歴・公民や理科②を2科目受験した場合、大学によって合否の判定方法が異なる。最初に受験した科目(第1解答科目)を判定に利用する場合と、2科目のうち高得点の科目を判定に利用する場合がある。志望校の募集要項をよく確認し、第1解答科目を慎重に選ぼう。

2 理科①の受験では60分で2科目を

解答するペースを身につけよう

文系の受験者が多いと考えられる理科①。理科①は「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」の4科目から2科目を選択し、60分で解答する。時間内であれば解答の順序も時間配分も問われない。実力が十分に発揮できるよう、事前に模試や問題集を使って、時間配分や解答するペースをつかんでおこう。

3 解答科目を正しくマークしよう

共通テストの解答用紙には、自分が選択した解答科目をマークする欄がある。解答科目欄のマークがない場合、もしくは複数マークした場合、どの科目を解答したのか特定できないために0点となってしまう。自分の受験する科目を正しくマークするように気をつけよう。

4 解答する科目の問題ページを確認しよう

数学や理科などでは、教科別の問題冊子に各科目の問題が掲載され、ページごとに科目が分かれている。そのため自分が解答する科目の問題ページを確認せずに問題を解き始めると、受験科目でない科目を解答してしまい、志望校の受験資格を失うこともある。試験本番は落ち着いて、受験科目の問題ページをまず確認しよう。

5 今年度から共通テストが導入される

特に英語は変更が大きいので心づもりをしておこう

今年度より、大学入学共通テストが導入され、英語については昨年度までのセンター試験と大きな違いがある。リスニングの音声は1回読みと2回読みが混合しており、第1・2間は2回読み、第3～6間は1回読みとなっている。また、今年度からリーディングとリスニングの配点比率が1:1になっている。大学によって配点の扱いは異なるため、必ず事前に各大学の情報を確認しておこう。

6 自己採点は正確にしよう

「約4人に1人は10点以上の自己採点ミスをしている」(進研模試の結果より)。10点以上かわると判定、合否に大きな影響を与えてしまい、出願ミスにつながる可能性もある。「正確な自己採点」のために、以下のポイントをしっかり守って、とにかく慎重に解答、自己採点するようにしよう。

正確な自己採点のために

～共通テスト本番での解答の掟～

- 試験開始前に、見直しの時間も計算に入れて時間配分をすること。
- 受験番号や名前などの記入に誤りがないかどうか確認すること。
- マークの「ダブリ」や記入欄の「ズレ」などがいないか確認すること。
- 受験中に自分の解答を問題冊子に必ず控えること。
- マークシート上で訂正した場合、問題冊子の控えにも訂正を反映させること。
- 訂正の際は完全に消しゴムで消すこと。
- 問題冊子の控えとマークシートの解答とが一致しているかを最後に見直すこと。

【保護者版】大学入学共通テスト当日までに確認しておきたいこと

■国公立大の前期・中期・後期の出願時期や合格発表・入学手続きについて

- ・国公立大の各日程の出願は同時期に行う。
- ・前期日程に合格、入学手続きを行うと、中期・後期日程に合格できない(第1志望は必ず前期日程で受験する)。
- ・合格した際には、大学が指定する期日までに入学手続きをしないと合格が取り消されてしまう。

■国公立大の願書は併願校分を含めて12月中旬に各家庭で取り寄せておく。

■試験会場から近く、ゆとりが持てる宿・ホテルを早めに予定しておく。

■国公立大と私立大の併願について

- ・それぞれの入試日・合格発表日・入学手続き締め切り日をチェックしておく。
- ・受験のための移動による肉体疲労などを考慮した受験スケジュールをつくる。
- ・入学を辞退した場合の初年度納付金の返還制度を確認しておく。
- ・大学入学共通テストは私立大受験にも有効に活用できる。
多くの私立大が共通テスト利用入試を実施している。受験のための移動時間や費用の負担を軽減できる。

■合格をめざして3月まで頑張り抜く

- ・国公立大後期日程試験の実質倍率はかなり下がる。
- ・私立大3月入試の有効活用を視野に入れておく。

■遅刻や忘れ物、体調不良などトラブルが発生したら

- ・どんなに気を配っても、トラブルが起きることはあります。寝坊で遅刻しそうになったり忘れ物をしてしまったりした場合は、すぐに試験会場か高校に連絡して指示を仰ぎましょう。